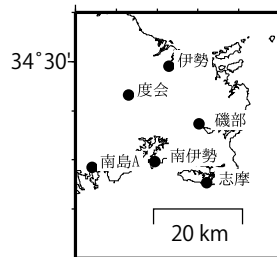
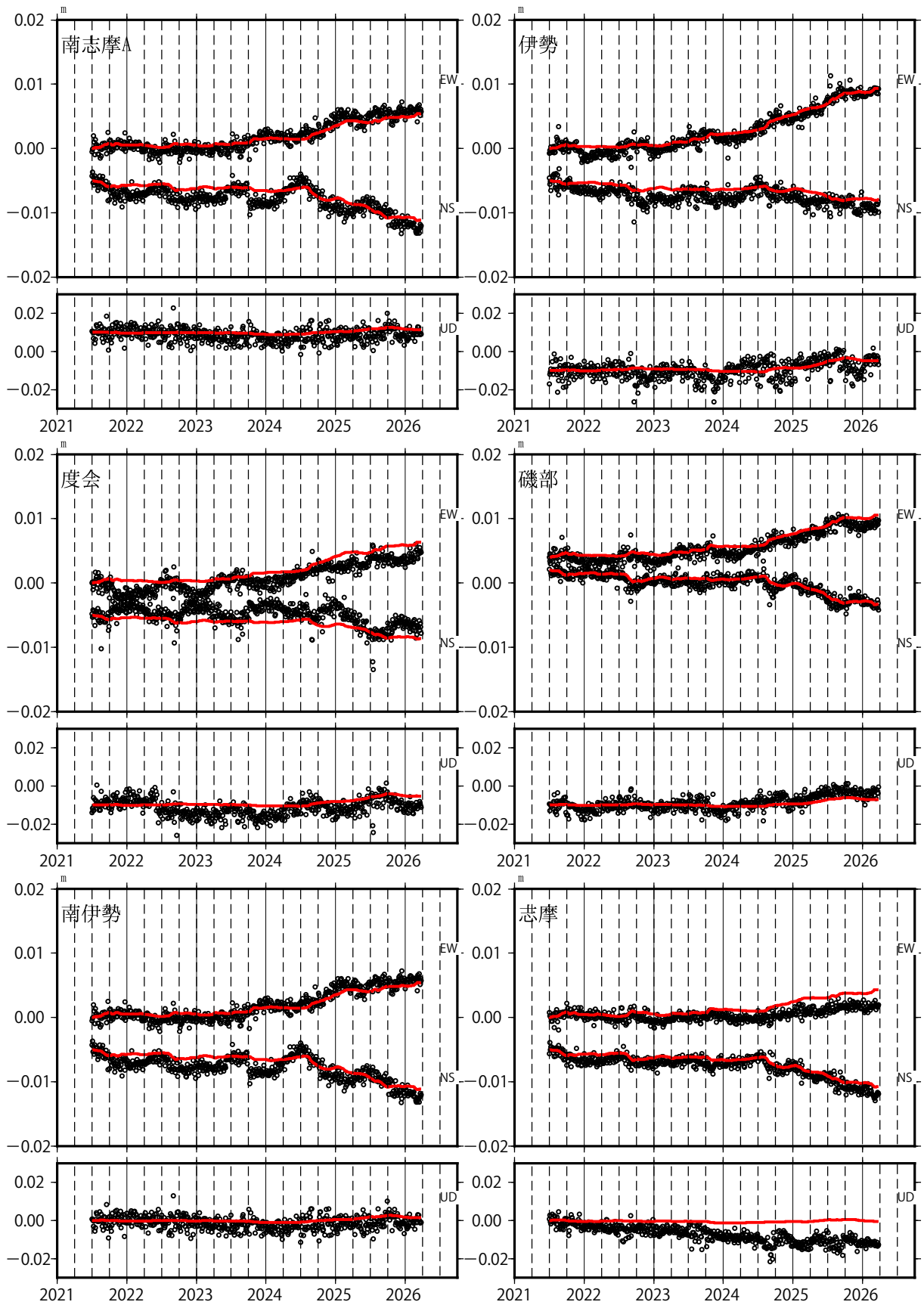


# 志摩半島地域の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線)

## 時間依存のインバージョン

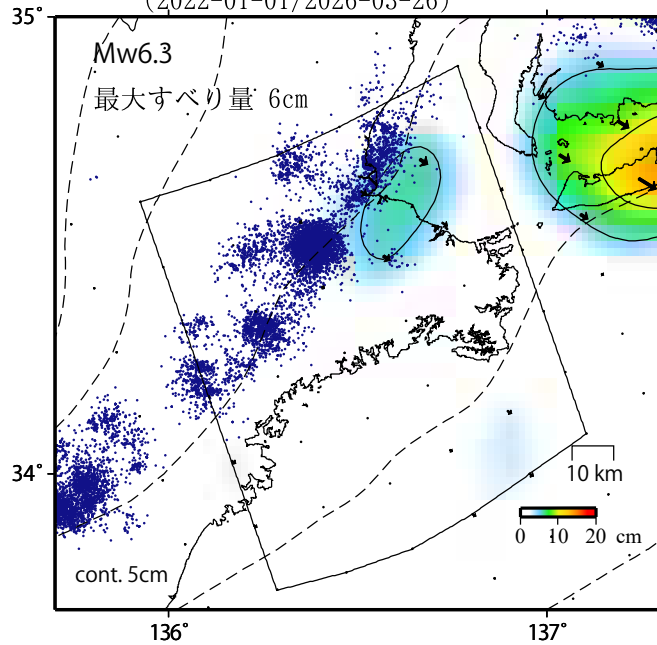


EW, NS, UD: 東西、南北、上下変動

# GNSSデータから推定された志摩半島地域の長期的ゆっくりすべり（暫定）

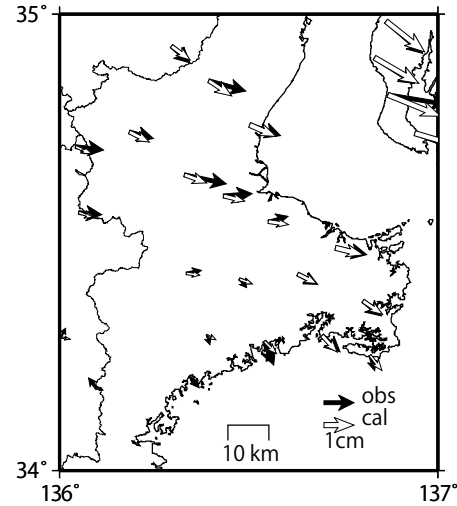
推定すべり分布

(2022-01-01/2026-03-26)

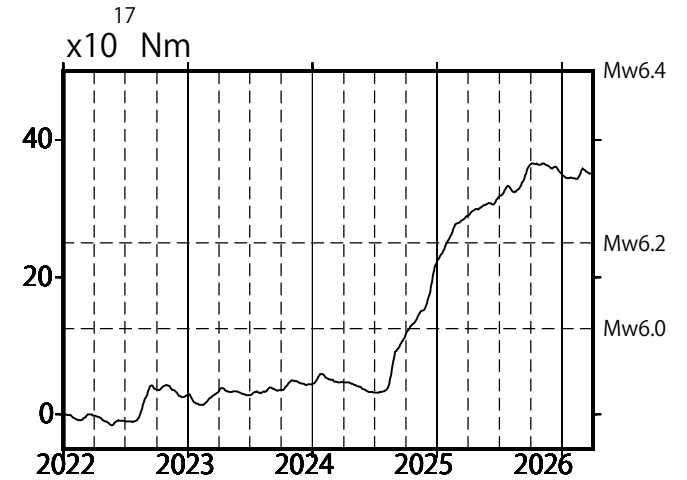


観測値（黒）と計算値（白）の比較

(2022-01-01/2026-03-26)



モーメント\* 時系列（試算）



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。  
すべり量(カラー)及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。  
推定したすべり量が標準偏差( $\sigma$ )の3倍以上のグリッドを黒色で示している。

使用データ：GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)  
・F5.1解(2021-07-01/2026-02-28) + R5.1解(2026-03-01/2026-03-26)  
・トレンド期間：2020-07-01/2022-07-01(年周・半年周成分は補正していない)

モーメント計算範囲：左図の黒枠内側

観測値：3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値

黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al., 2008)

すべり方向：プレートの沈み込み方向に拘束

青丸：低周波地震(気象庁一元化震源)(期間：2022-01-01/2026-03-26)

固定局：三隅

\*モーメント：断層運動のエネルギーの目安となる量。

\*電子基準点の保守等による変動は補正している。

\*気象庁カタログ(2017年以降)の短期的ゆっくりすべりを補正している。

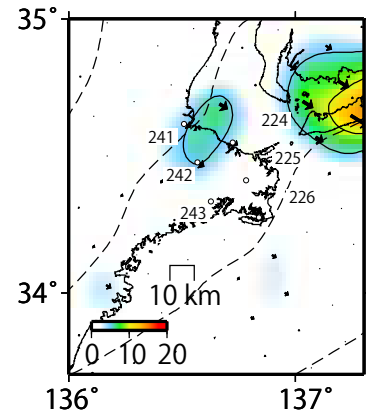
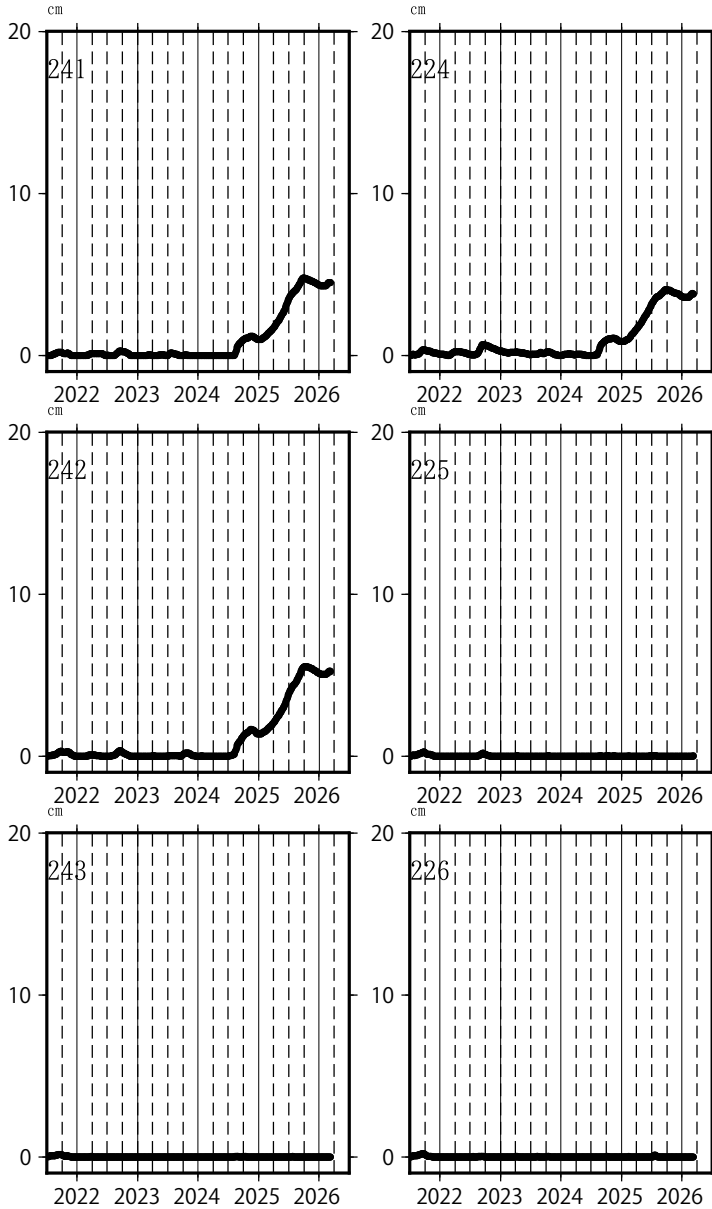
\*共通誤差成分を推定している。

\*平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形は補正している(Suito, 2017)。

\*令和6年能登半島地震に伴う地殻変動は補正している。

\*令和6年能登半島地震の粘弾性変形は補正している(Suito, 2025)。

志摩半島地域の長期的ゆっくりすべり  
各グリッドにおけるすべりの時間変化  
時間依存のインバージョン



\* プレートの沈み方向と平行な方向の変化を示している。

すべり量(カラー)及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示す。  
推定したすべり量が標準偏差( $\sigma$ )の3倍以上のグリッドを黒色表示している。